

# ルールブック 2018 変更点

## セルフジャッジの方法 (ルールブックP.60～62)

- (2) ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。ボールがラインにタッチした時、**ボールとラインの間に空間が見えなかった時**、あるいは**ボールを見失って判定できなかった時は「グッド」**である。
- (3) 判定とコールは、相手にはっきりと分かる声とハンドシグナルを使って、**ボールの着地後速やか**に行う。
- (14) 各判定とコールをする権利者について
- a 「フォールト」「アウト」「グッド」は**ネットから自分側のプレーヤー・チーム**のいずれか
  - b 「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」は**両プレーヤー・チーム**
  - c 「フットフォールト」は**コート内**にいる**レフェリー(アシスタントレフェリー)、ロービングアンパイア**のいずれかが行える。
- (15) オーバールール  
「イン」「アウト」のオーバールールは巡回している**レフェリー(アシスタントレフェリー)、ロービングアンパイア**のいずれかが行える。
- (16) 妨害によるレットのコール
- a **コート外からの妨害**による「レット」のコールは**両プレーヤー・チーム**ができる。
  - b 対戦相手からの**無意識の妨害**(落し物 1 回目を含む)は**妨害を受けたプレーヤー・チームのみ「レット」**をコールできる。2 回目以降は**故意に妨害したとして失点**する。

- c 対戦相手から故意の妨害「ヒンダランス」は、妨害を受けたプレーヤー・チームからの申し出により**レフェリー(アシスタントレフェリー)、ロービングアンパイアが判断をする**。ただし妨害を認知しながら意識的にプレーを続行した場合は妨害と見なされない。

(17) 誤ったコールを直ちに訂正した場合

インだったボールを誤って「アウト」とコール(ミスジャッジ)したが直ちに訂正(コレクション)した場合は、**1 回目は故意ではない妨害としてポイントレット**にする。ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウイニングショットまたはエースだった場合は、ミスジャッジをしたプレーヤー・チームの失点となる。そして、**2 回目以降は故意に妨害したとして失点**する。

愛川テニス協会